

# 市政ニュース

## 市役所新庁舎建設

### 現本庁舎の保存・活用についてお知らせします

市では、市役所新庁舎建設に当たっては、現本庁舎を保存し、活用する方向で基本設計を進める」方針を9月市議会で説明し、新庁舎建設基本設計業務の業者を選定しました。

基本設計を進めていく上では、現本庁舎の活用方法を明確にする必要があります。そこで、機能面、費用面および財源面の3つを軸に検討を進めた結果、次のとおり現本庁舎を活用することにしました。

① 現本庁舎の1階部分は、交流機能の強化を図ります。

② 2階部分は、元々旧豊岡町の議場として設計・使用されていたものです。重厚さと風格を備えた空間を生かすこととし、建築当初の内装を復元し、必要な装飾を加えた上で、議会の独立性を重んじ、市民の代表者が議論を戦わせる「市政の歴史を刻む場」として、議場とすることがふさわしいと考えています。

③ 3階部分は、建築基準法上の制約がありますので、現在用途は未定です。

今後、市議会での議論や庁舎建設調査特別委員会の調査報告書などを十分に踏まえ、設計業務を進めていきます。

なお、市民の皆さんには、11月末に具体的なイメージができた段階で説明する予定です。



▲議場イメージ図

流機能（イベン）ト・会議などに利用するスペースとし、前庭と合わせ活用

## SATOYAMA教育イニシアティブ実習

### 大学生と研究員が田結区を調査しました

市では、東京大学と国連大学院高等研究所と連携して、昨年度から「日本・アジアSATOYAMA教育イニシアティブ」と題した講義・演習・実習統合型教育プログラムの準備を進めてきました。

このプログラムは、里山に代表される伝統的な地域資源の利用・管理システムへの理解を深めるとともに、フィールドでの実践および国際的な交流を通じて、アジアや世界に発信できる国際的な環境リーダーの育成を目指します。

東京大学生と国連大学院研究員が、9月29日から10月2日まで滞在し、「生物多様性と農業」のテーマの下、県立コウノトリの郷公園などでの合同実習や、田結区の谷あいを中心としたフィールドでのグループ実習を行いました。

最終日は、市内の高校生や地域住民を交えてワークショップを開催し、豊かな生態系それらを生かした観光ツアーなどの提案、地域住民と自然のかわりについでなど、グループ別に研究成果の報告を行いました。



▲フィールドでのグループ実習

## 豊岡市経済成長戦略の提言書を受理 目指す将来像は環境先進都市「豊岡エコバレー」

10月5日、豊岡市経済成長戦略会議から、今後10年間で重点的に取り組む戦略（検討）プロジェクトを盛り込んだ「豊岡市経済成長戦略」の提言書が中貝市長に手渡されました。

提言では、目指すべき豊岡の将来像を環境先進都市「豊岡エコバレー」（エコバレー）とし、それに沿って取り組む、環境経済の推進や観光客誘致、定住促進などの20事業が掲載されています。

## 主な市政の動き

### 9月

- 24日・第64回国民体育大会および第9回全国障害者スポーツ大会本市出身選手激励会開催
- 30日・出石永楽館狂言鑑賞教室開催
- 戦没者追悼式開催

### 10月

- 1日・e通勤プロジェクト開始
- 台風9号・豊岡市災害警戒本部（豊岡・城崎・日高・但東地域）解散
- 府中小学校屋外運動場照明施設点灯式
- 空き家情報登録制度「空き家バンク」を開始
- 5日・「豊岡市経済成長戦略」提言書を受理
- 6日・市長の出前講座（出石中、日高西中）
- 7日・台風18号・豊岡市災害警戒本部設置（8日解散）
- 「豊岡市経済成長戦略」提言書の意見募集（21日）
- 9日・市長の出前講座（日高東中、豊岡南中）
- 「名探偵コナン」城崎温泉・出石ミステリーツアー参加者1万人達成

## 出石永楽館狂言鑑賞教室を開催

### 小学6年生の笑い声が響きました

9月30日、出石永楽館で、狂言鑑賞教室を開催し、市内の全小学校6年生870人が狂言を楽しみました。

これは、市が、かつて新型インフルエンザ騒動で修学旅行の実施などに影響を受けた児童に笑いをプレゼントし、元氣いっぱい学校生活を送ってもらおうと企画しました。

また、茂山千之丞さんの「温かみのある出石永楽館で、子どもたちに狂言の面白さを

伝えたい」という好意もあり、実現したものです。

当日は、最初に、狂言の楽しみ方を学びました。舞台を三角形を描くように歩くと場面が変わることや、黒い蔓桶は器やいす、木などに、また、扇は杯やのこぎりになるなど、実演を交えて教えていただきました。

その後、児童たちは、教科書に載っている「柿山伏」や一休さんの水あめのとんち話で



▲柿の盗み食いいがばれないように鳥のまねをする山伏

も有名な「附子」を鑑賞し、こっけいでしゃれの効いた芝居に、何度も大笑いしていました。

## 市長の出前講座を開催

### 市内の中学3年生に豊岡のまちづくりを語りました

中貝市長が市内の全中学校に出向き、将来の豊岡を担う中学3年生に、「豊岡の挑戦」と題した講演を行う「市長の出前講座」を開催しました。

10月6日は、出石中学校と日高西中学校で行いましたが、豊岡のまちづくりの話聴く生徒のまなざしは真剣そのものでした。

講演後、生徒から「小さな世界都市にしていきたいために中

学生ができることは何か」や「どうしたら神鍋の観光客が増えるか」、また「副市長を全国から公募した理由は何か」などの質問が出ました。

中貝市長は、それぞれの質問に「まずは豊岡を知ることから始めよう」、「神鍋をスポーツのメッカにするため大会を誘致することや城崎・出石など市全部で連携しながら頑張ることが大切」、「一つのチ

ームである豊岡市役所をもっと素晴らしいチームにするため、民間経験者を広く募集したい」として招きかけたかったから「などと答えていました。



▲市長の出前講座(出石中学校)

## 中貝市長の徒然日記 ⑳

### たくさんのヒーロー

「一人のカリスマよりもたぐさんのヒーロー」

伊勢丹のカリスマバイヤーと呼ばれた藤巻幸夫さんが経営破たんした福助を再建したときのキーワードです。社長一人頑張ってもどうにもならない。一人ひとりの社員がやる気を取り戻すこと。

わが市役所はどうか? 「俺が俺が」と力が入っていて、恥じ入るばかりです。もちろん、市長がどうであれ頑張っている職員はたくさんいます。その一端を紹介します。

一昨年のこと。予算査定中の会議室に、突然、税務担当の職員が入って来ました。「市長、1分だけ時間をください」彼は、持っていた封筒から何やら取り出してトンと私の目の前に置きました。「1千万円あります」「ど、どうしたの、これ?」「税の滞納で差し押さえていた土地が売れました」。

財政課長は、と見ると、ほころんだ顔で「ありがとうございます」とびよこんと頭を下

げています。

生活相談員は、複数のサラ金の借金で苦しんでいる人の相談に乗っています。法律の制限を超える利息を払われるケースが多くあり、相談

員は、司法書士などと一緒に過払い利息を取り戻しています。サラ金と交渉し、ときにサラ金を裁判に訴えたりしながら、これまでに292人の方について約2億3千万円

を取り戻しています。そのうち約7千万円を市税の納付に回していただき、残り約1億6千万円が本人の元に戻りました。何より、多重債務者の人生に再び光が差したことが、相談員の最大の喜びです。

遠隔地の方で、窓口の対応が良かったからといって100万円のふるさと納税をしていただいたケースもあります。

国では、官僚叩きが絶頂ですが、豊岡は、「職員、頑張れ!」です。

